

## 石川県支部

### あらゆる業種に適用可能な経営診断ツールの開発に関する調査研究

経営診断と言われるものの手法やプロセスには、はっきりとした標準モデルというものには存在していない。よって、診断する人が異なれば、いい意味でも悪い意味でも、そのアウトプットが百人百葉となることが実情であるといえる。

一方で近年は、各種の経営賞や品質賞、およびISO、さらには業界ごとに特有の要素を加味した経営やサービスの「質」を第三者が客観的に評価する制度が産業界に浸透しつつあり、社会的な関心が持たれている。これらの「第三者評価モデル」は、明確な一定の評価基準を設けることにより、企業・組織の経営のあり方や業務システムの再構築を促進し、また評価制度によってその特質を第三者へ開示することも可能としている。

当調査研究においては、それぞれの経営評価の目的には若干異なる点があるにせよ、中小企業診断士の実施する「診断業務」と共通点が多いと考え、「第三者評価モデル」の特徴にならば、より標準的、客観的、かつ適用業種の汎用性をもつ「便利でわかりやすい」経営診断ツールの開発・設定に取り組んだ結果を報告する。

報告書の内容構成としては、一般的に認知されている第三者評価モデルとの比較検討からはじまり、今回の新たな経営診断ツールの設定した評価項目の解説や使用法、および推奨される診断の手順について述べている。さらには、診断ツール自体の出来栄の評価をするために、企業へのアンケート調査やモデル企業での診断事例についても紹介している。

この新たな経営診断ツールには、そのコンセプトから『見える経営の診断』と名付けた。

『見える経営の診断』の開発に取り組んだ目的は、中小企業にとって経営診断サービスをより身近なものに感じてもらい、外部の専門家の観点も通して、自らの強み・弱みを認識してもらうことである。そして、多くの企業・組織に、経営の改善・革新を通して「持続可能な成長」を遂げてもらいたいためである。

まだ試行的な段階とはいえ『見える経営の診断』を開発したからには、中小企業診断士をはじめとする専門家に少しでも利用してもらえる機会をいただき、経営診断あるいはマネジメントシステム評価の方法として普及することを願っている。

さらに拡大した用途として、金融機関やベンチャーキャピタルの企業評価としての活用ができないかということもある。ベンチャーキャピタルは、元来企業の成長性を最も重要な評価対象としており、金融機関においても、近年リレーションシップ・バンキングとして、資産の担保価値ではなく、経営の質や事業の成長性を主要な融資条件としてきている。

先の第三者評価モデルの代表的な1つに、ISO9001やISO14001のマネジメントシステムがあるが、これが今日のように普及したのは、取引先や官公庁が企業に要求したことも

否めないが、なんといっても国際規格というブランド力が根底にある。さらに従来まで製品の試験・検査を専門としていた業界団体が中心となり、国際的な枠組みのなかで認証というサービス商品づくりをして、経営の仕組み（マネジメントシステム）を評価することに、実績を積んできている。認証というロイヤルティが、評価サービス自体の内容・質を超えて、感情的な魅力を訴求している。

『見える経営の診断』も1つのサービス商品とすると、社会的に認知され普及するには、利用価値もさることながら、ブランド化も必要条件である。読書の専門家の方々より、サービス商品としての改良、およびマーケティングの双方において、さまざまな助言と支援をいただければ幸いである。